

英語 II (初級英会話) 中highで習った英語を英会話で使いましょう!

ナンバリング 2 単位

DFL102



担当教員: Simon Thollar

専門

英会話一般、英語の発音、e-learning 一般、動機づけ 一般、教育法

出身校等

タスマニア大学教育学部卒業 タスマニア大学経営文学士、タスマニア大学特別教育修士 英国国立シェフィールド大学日本研究修士

現職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

| | |
|--|---------------------------------|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | |
| 教科書の内容すべて | |
| 試験期間 | |
| シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 | |
| 試験範囲 | |
| 授業範囲すべて | |
| <p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ (通信教育部 POLITE を除く) と生成系 AI の参照は不可とする。</p> | |
| 科目の概要 | |
| この授業は会話が基本です。文法に縛られた英語学習から解放することを意図した講義で、さまざまな場面を想定した表現法を紹介します。e-Learning の場合は、よく chapter movie を見て下さい。わからないことがあれば、すぐに質問する姿勢が大切です。 | |
| 科目における学修の到達目標 | |
| この授業は基本の会話を習得することを目標とします。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われるので、文法よりも会話(communication)に重点をおいています。 | |
| 講義の方針・計画 | |
| <p>全ての講義でテキストを使います。テキストは chapter1 から chapter14 まであります。会話を基本とし、話すことに重点をおくので、繰り返し練習すること。</p> <p><学習方法></p> <p>(1) chapter dialogue (English Story & Japanese Story)を読む。</p> <p>(2) key sentence の説明を理解する。</p> <p>(3) student exercises を解く。</p> <p>(4) 次の chapter にすすむ。</p> <p>(注) e-Learning の場合は、chapter の問題/選択問題を必ず解くこと。</p> <p><ながれ></p> <p>第 1 回: Chapter 1 "How you doing?" 挨拶</p> <p>第 2 回: Chapter 2 "This is Paul." 人と会う</p> <p>第 3 回: Chapter 3 "You doing anything?" 予定</p> <p>第 4 回: Chapter 4 "Let's go out!" 招待</p> <p>第 5 回: Chapter 5 "What can I get you?" 外食</p> <p>第 6 回: Chapter 6 "Got a tissue?" 持っている</p> <p>第 7 回: Chapter 7 "Crazy about Eric." 好み</p> <p>第 8 回: Chapter 8 "Is John there?" 電話</p> <p>第 9 回: Chapter 9 "What's wrong with me?" 病気</p> <p>第 10 回: Chapter 10 "Never heard of it." 経験</p> | |

| |
|---|
| 第 11 回： Chapter 11 "In 2 weeks?" 過去未来 |
| 第 12 回： Chapter 12 "I've been waiting." どのくらい |
| 第 13 回： Chapter 13 "Gotta go!" 提案 |
| 第 14 回： Chapter 14 "Take care!" 別れ |
| 第 15 回： まとめ もう一度 key sentence を読むこと。(IP メディアの場合、模擬試験) |
| 準備学習(予習・復習) |
| (予習) 聴講前に、教科書の該当箇所に目を通してください。 (復習) 聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。 |
| 成績評価の方法およびその基準 |
| 科目試験：100% |
| 教科書 |
| 書 名： Simon Says -Basic English Conversation for Young Adults- (第 2 版) 著者名： Simon Thollar 発行所：丸善プラネット ISBN：9784863454187 |
| 参考書・参考 Web サイト |
| なし |
| 関連授業科目 |
| なし |
| その他 |
| 学習用プリントはありません。 |
| 担当教員の実務経験 |
| Simon Thollar: Native speaker Published 3 text books Taught over 30,000 university students Over 10 presentations at international language conferences Teaching in universities over 30 years Involved with e-Learning and effective Instructional design for over 25 years Based on the above, the aim of this course is to help you understand and enjoy English. |

英語 IV (中級英会話) 英語でよく出る言葉の色々な使い方を覚えましょう!

ナンバリング 2 単位

DFL104



担当教員: Simon Thollar

専門

英会話一般、英語の発音、e-learning 一般、動機づけ 一般、教育法

出身校等

タスマニア大学教育学部卒業 タスマニア大学経営文学士、タスマニア大学特別教育修士 英国国立シェフィールド大学日本研究修士

現職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

| | |
|----------------------|--|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | 教科書の内容すべて |
| 試験期間 | シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 |
| 試験範囲 | 授業範囲すべて 【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ (通信教育部 POLITE を除く) と生成系 AI の参照は不可とする。 |
| 科目の概要 | この授業は会話が基本です。文型等の表現法は、さまざまな場面を想定したモデルを通して紹介します。この講義で紹介する英語は、現在使われている熟語やスラングも含み、実際の英会話を反映するものを選んでいきます。e-Learning の場合は、よく chapter movie を見て下さい。 |
| 科目における学修の到達目標 | この授業は会話力をさらに向上させるコースです。すでに習得している会話力や聞き取りなどをもっと発展させることを重点としています。学生は英語 II で基本的な会話をすでに習得していると思われるので、会話力をさらに上達させることが目標です。 |
| 講義の方針・計画 | 全ての講義でテキストを使います。テキストは chapter1 から chapter14 まであります。会話を基本とし、話すことに重点をおくので、繰り返し練習すること。 <学習方法> (1) chapter movie (on-line か CD)を見る。 (2)key sentence の説明を理解する。 (3)student exercises を解く。 (4) 次の chapter にすすむ。 (注) e-Learning の場合は、chapter の問題/選択問題を必ず解くこと。 <ながれ> 第 1 回: Use of the word "how" 第 2 回: Use of the word "what" 第 3 回: Use of the word "take" 第 4 回: Use of the word "have" 第 5 回: Use of the words "there is/are, many/much" 第 6 回: Use of the words "it, that, one" 第 7 回: Use of the word "get" 第 8 回: Use of the word "give" 第 9 回: Use of the words "say/speak/tell" |

| |
|--|
| 第 10 回： Use of the words "see/watch/look" |
| 第 11 回： Use of "almost/nearly/just about" |
| 第 12 回： Use of numbers, quantities & qualities |
| 第 13 回： Use of tag questions |
| 第 14 回： Use of the words "come/go" |
| 第 15 回： Revision of previous chapters |
| 準備学習(予習・復習) |
| 以下の準備学習を行う。 (予習) 聴講前に、教科書の該当箇所に目を通してください。 (復習) 聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。 |
| 成績評価の方法およびその基準 |
| 科目試験：100% |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 |
| IM 授業は、練習問題を解答すると、解答に応じたコメントを画面に表示する。 |
| 教科書 |
| 書 名：HOBBYMAN (第 3 版) 著者名：Simon Thollar 発行所：丸善プラネット ISBN：9784863455573 注意事項： ※2024 年度から、第 3 版が発行となりました。 一般書店で入手できない場合は、マイページから指定書店（紀伊國屋書店北海道営業部）へお申し込みください。（既に第 2 版をお持ちの方は、購入し直す必要はありません。） |
| 参考書・参考 Web サイト |
| なし |
| 関連授業科目 |
| 「英語 II（初級英会話）」を履修済であることが望ましい。 |
| その他 |
| なし |
| 担当教員の実務経験 |
| Simon Thollar: Native speaker Published 3 text books Taught over 30,000 university students Over 10 presentations at international language conferences Teaching in universities over 30 years Involved with e-Learning for over 25 years Summer overseas programs coordinator Based on the above, the aim of this course is to help you understand and enjoy English. |



担当教員： 田中 英夫

専 門

貿易論・国際関係論・国際経営論・中国語・中国ビジネス論

出身校等

大阪市立大学大学院経営学研究科商学専攻後期博士課程修了（商学博士）

現 職

北海道情報大学 教授

| | |
|--|---------------------------------|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「発音編」の範囲は初級中国語の母音（36 個）、子音（21 個）、四声、軽声、音節の仕組みなど ・「文法編・読解編」の範囲は単語・文法・本文・練習問題など ・「会話編・中国語の豆知識編」の範囲はコラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9 個）など | |
| 試験期間 | |
| シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 | |
| 試験範囲 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 冊の指定教科書が範囲です。 ・ 2 冊の指定教科書本文と語法からであるが、リスニングはありません。 <p>【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> | |
| 科目の概要 | |
| <p>テーマ 基礎から初級程度の中国語の習得</p> <p>概要 この講義では、授業担当者自身が書いた 2 冊の教科書を使い、初級中国語の発音・文法・読解の基礎を習得すると同時に、日常会話能力の養成も図りたいです。</p> | |
| 科目における学修の到達目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・初級中国語の母音、子音、四声、軽声、音節の仕組みなどを簡潔に解説し、正確な発音を習得します。 ・単語・文法・本文・練習問題などの学習を通じて、初級中国語の文法と読解力を高めます。 ・コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9 個）の学習を通じて、初級中国語の日常会話力を高めます。 <p>同時に、中国語の豆知識も身に付けます。</p> | |
| 講義の方針・計画 | |
| <p>I 「発音編」の方針 初級中国語の母音、子音、四声、軽声、音節の仕組みなどを簡潔に解説し、正確な発音を習得します。</p> <p>II 「文法編・読解編」の方針 単語・文法・本文・練習問題などの学習を通じて、初級中国語の文法と読解力を高めます。</p> <p>III 「会話編・中国語の豆知識編」の方針 コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9 個）の学習を通じて、初級中国語の日常会話力を高めます。</p> <p>同時に、中国語の豆知識も身に付けます。</p> <p>具体的な講義の計画は以下の通りです。</p> <p>第 1 回：発音編（その 1）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国と中国語の基礎知識 2. 母音（36 個）とは何か？ 3. 子音（21 個）とは何か？ <p>第 2 回：発音編（その 2）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母音（36 個）と子音（21 個）の総合復習 | |

2. 「音節の仕組み」と「音節の綴りの規則」の解説

3. 発音編課題の解答記入（受講者）と解答の解説（担当者）

第3回：文法編・読解編（第1課の単語、文法、本文、練習問題など）

第4回：文法編・読解編（第2課の単語、文法、本文、練習問題など）

第5回：文法編・読解編（第3課の単語、文法、本文、練習問題など）

第6回：文法編・読解編（第4課の単語、文法、本文、練習問題など）

第7回：文法編・読解編（第5課の単語、文法、本文、練習問題など）

第8回：文法編・読解編（第6課の単語、文法、本文、練習問題など）

第9回：文法編・読解編（第7課の単語、文法、本文、練習問題など）

第10回：文法編・読解編（第8課の単語、文法、本文、練習問題など）

第11回：文法編・読解編（第9課の単語、文法、本文、練習問題など）

第12回：文法編・読解編（第10課の単語、文法、本文、練習問題など）

第13回：日常会話編・中国語の豆知識編

1. コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9個）の解説

2. コラボ型日常会話編（第十三課～第十四課の単語と本文など）

第14回：日常会話編・中国語の豆知識編

1. コラボ型会話で使う「主要助詞・副詞・介詞・助動詞」（9個）の解説

2. コラボ型日常会話編（第十五課～第十六課の単語と本文など）

第15回：日常会話編・中国語の豆知識編

1. コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9個）の解説

2. コラボ型日常会話編（第十七課～第十八課の単語と本文など）

3. 課題の解答記入（受講者）と解答の解説（担当者）

準備学習(予習・復習)

・教科書や学習プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。

・わからない用語や内容は、参考文献などで検索することが準備学習として必要になります。

成績評価の方法およびその基準

次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

練習問題や課題は授業中にその解答の解説を行う形でフィードバックします。

教科書

使用教科書（2冊）は以下の通りです。

・書名：『改訂版 会話で学ぶ初級中国語 CD付』

著者名：田中英夫

発行所：丸善プラネット

ISBN：978-4-86345-558-0

・書名：『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』（音声再生アプリ付）

著者名：田中英夫

発行所：朝日出版社

ISBN：9784255453491

実施方法は以下の通りです。

・『改訂版 会話で学ぶ初級中国語 CD付』は全ての内容（第1回、第3回～第12回）

・『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』は14頁～33頁の内容（第2回）、50～51頁の内容（第13回～第15回）、132頁～179頁の内容（第13回～第15回）

参考書・参考Webサイト

なし

関連授業科目

- ・「海外事情（中国編）」（正科生 B のみ履修可能）
- ・「海外語学・文化研修（中国大連編）」（正科生 B のみ履修可能）

その他

なし

担当教員の実務経験

なし



担当教員： 高井 那美

専 門 コンピュータグラフィックス
 出身校等 東京大学大学院 博士（理学）
 現 職 北海道情報大学 経営情報学部 教授

| | |
|--|---------------------------------|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ワープロソフト「Word 2021」 ・表計算ソフト「Excel 2021」 | |
| 試験期間 | |
| シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 | |
| 試験範囲 | |
| 授業範囲全て | |
| <p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> | |
| 科目の概要 | |
| <p>今日の情報社会では、情報を適切な形に編集し、発信する能力を身につけていかなければならない。本講義では、その手段として、ワープロソフト Word 及び表計算ソフト Excel の使用方法を学習する。初歩的な内容からスタートし、Word では表や図の挿入、Excel では関数の使用など、一歩進んだ内容も取り扱う。</p> | |
| 科目における学修の到達目標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ Word を使用して効率的に見やすい文書・表が作成できる ・ Excel を使用して関数を用いた複雑な表計算やグラフの作成ができる | |
| 講義の方針・計画 | |
| <p>若干内容が前後の回にまたがることもありますが、主な内容は次の通りです。</p> <p>第 1 回：Word の基本操作、文字入力 第 2 回：基本的な文書の作成 第 3 回：文書の編集 第 4 回：文字の装飾 第 5 回：文字の配置 第 6 回：表の作成 第 7 回：図形の作成、画像の挿入 第 8 回：Excel の基本操作、表の作成 第 9 回：数式 第 10 回：関数 第 11 回：表の体裁 第 12 回：グラフ 第 13 回：条件付き書式 第 14 回：データベース機能 第 15 回：シートの操作、印刷</p> | |
| 準備学習(予習・復習) | |
| <p>(予習) Word、Excel のメニューにどのようなものがあるかを見ておく。 また、教科書とプリントに目を通し、授業を通して何ができるようになるのかを把握しておく。1 時間</p> | |

| |
|---|
| (復習) 授業中に提示された練習問題を完成させる。更に、授業では使わなかった設定も試してみる。3時間 |
| 成績評価の方法およびその基準 |
| 次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験：100% |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 |
| 練習問題解答後、解説を行います。 |
| 教科書 |
| 書名：今すぐ使えるかんたん Word & Excel 2021 [Office 2021/Microsoft 365 両対応] (初版) 著者名：技術評論社編集部+AYURA 発行所：技術評論社 ISBN：9784297128012 |
| 参考書・参考Webサイト |
| なし |
| 関連授業科目 |
| なし |
| その他 |
| 受講にはマイクロソフトの「Word2021」及び「Excel2021」が必要です。 |
| 担当教員の実務経験 |
| 実務経験なし |



担当教員： 松井 伸也

専 門 非線形解析、流体力学

出身校等 北海道大学理学研究科 博士（理学）

現 職 北海道情報大学 情報メディア学部 教授

| | |
|--|---------------------------------|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | |
| インターネットメディア授業内容すべて | |
| 試験期間 | |
| シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 | |
| 試験範囲 | |
| 授業範囲のすべて | |
| <p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> | |
| 科目の概要 | |
| <p>数学および数学関連の講義を受講する上で、基礎的な代数的計算を思い直すのは重要な事です。普段何気なく行っている計算が、どのような計算であるかを考え直し、形式的な計算ではなく納得した計算をして頂きたいのです。現代の代数学の根拠をなす計算だとも言えます。</p> <p>一つ一つの計算を、その意味を考えながら計算することを、この講義のねらいとします。</p> <p>なお、教職の免許を取得する方には、基礎的な計算に不安が残る生徒に、基礎的な計算の成り立ちを理路整然と説明することでその不安を取り除く事ができると思います。</p> | |
| 科目における学修の到達目標 | |
| 基本的な計算の仕組み(理由)を説明できるようになることを到達目標としたい。 | |
| 講義の方針・計画 | |
| <p>第 1 回：分数(1) 基礎</p> <p>第 2 回：分数(2) 演習</p> <p>第 3 回：式の計算</p> <p>第 4 回：式の展開 (1) 基礎計算</p> <p>第 5 回：式の展開 (2) 演習</p> <p>第 6 回：因数分解 (1) 基礎計算</p> <p>第 7 回：因数分解 (2) 演習</p> <p>第 8 回：今までの演習</p> <p>第 9 回：ルートの意味</p> <p>第 10 回：ルートの計算</p> <p>第 11 回：1 次方程式と 2 次方程式</p> <p>第 12 回：2 次方程式と解の公式</p> <p>第 13 回：分数式の計算</p> <p>第 14 回：連立 1 次方程式</p> <p>第 15 回：全体の演習</p> | |
| 準備学習(予習・復習) | |
| <p>以下の準備学習を行う。</p> <p>(予習) 前回の講義で行った計算などをやり直して下さい。</p> <p>(復習) 各回の講義を受講後に、講義で行った計算などをやり直して下さい。</p> | |

| |
|--|
| 成績評価の方法およびその基準 |
| 次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。インターネットメディア授業：科目試験 40%，IM 授業内の演習問題 60% 試験と演習問題により総合的に評価を行います。 演習問題の正解を学修の履歴を見て平常点（最大 59 点）とし，試験結果に加点します。60 点以上が合格です。 試験の点数と演習問題の点数の合計は 100 点を超えません。 |
| 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 |
| 演習問題の結果はその場で分かります。質問等は事務を通して行って下さい。可能な限り速やかに返事を出します。 |
| 教科書 |
| ありません。 |
| 参考書・参考 Web サイト |
| ありません。 |
| 関連授業科目 |
| 三角関数・指数関数・対数関数 |
| その他 |
| ありません。 |
| 担当教員の実務経験 |
| ありません。 |



担当教員： 西平 順

専 門 内科学、医療情報学、分子医科学
 出身校等 北海道大学 医学部 医学博士（北海道大学）
 現 職 北海道情報大学 非常勤講師

| | |
|----------------------|---|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | インターネットメディア授業内容すべて |
| 試験期間 | シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 |
| 試験範囲 | 授業内容すべて 【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。 |
| 科目の概要 | 過食や運動不足による糖尿病や肥満などの生活習慣病、また高齢化による認知症の増加など、国民の健康と医療に対する関心は極めて高い。健康増進法の施行により、健康寿命の延伸が急務とされており、内臓肥満を基盤に発症するメタボリックシンドロームへの対策など予防医学に国全体として取り組んでいる。その間、75 歳以上の高齢者を対象にし、後期高齢者医療制度が導入実施されるなど、医療の構造改革が推進され、医療の質を損なうことなく、医療費の増大を抑制する手段として IT（情報技術）を活用することなど医療情報へ注目が集まっている。 |
| 科目における学修の到達目標 | 本講義では、その改革の担い手である医療情報学の見地から、医学医療の基礎的な分野である医療制度論、解剖生理学から病気と治療についての臨床医学について学ぶことを目標とする。 |
| 講義の方針・計画 | 医学医療で取り扱う領域は、保健、医療、介護福祉まで幅広いことから体系的に学習することが求められる。本講座では、医療制度、臨床検査、社会医学など医学・医療の基礎と人体の解剖、脳、心臓など臓器ごとの疾患について学ぶ。 第 1 回：医療管理（1） 第 2 回：医療管理（2） 第 3 回：人体の構造（1） 第 4 回：人体の構造（2） 疾病の原因と分類 第 5 回：脳・神経系、循環器系機能と疾患 第 6 回：呼吸器系、消化器系機能と疾患 第 7 回：代謝・内分泌の機能と疾患、筋骨格系 第 8 回：皮膚、耳鼻咽喉系、眼および付属器、泌尿器系 第 9 回：生殖器系、乳房、新生児疾患・奇形、小児科、精神、口腔、救急災害医療 第 10 回：臨床看護、先進医療 第 11 回：臨床検査（1） 第 12 回：臨床検査（2） 第 13 回：医療画像診断 第 14 回：医薬品 第 15 回：診療プロセス、介護プロセス、診療ガイドライン |
| 準備学習(予習・復習) | 以下の準備学習を行う。 |

| |
|---|
| <p>(予習) インターネットメディア授業の各回のタイトルから、用語を調べる。</p> <p>(復習) 授業後に、用語等のポイントについてまとめる。</p> |
| <p>成績評価の方法およびその基準</p> |
| <p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%</p> |
| <p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</p> |
| <p>E ラーニングによる授業ですので、繰り返し学習し、知識の定着に努めて下さい。</p> <p>IM 授業は、練習問題を解答すると、解答に応じたコメントを画面に表示する。</p> |
| <p>教科書</p> |
| <p>なし</p> |
| <p>参考書・参考 Web サイト</p> |
| <p>書名：新版 医療情報 医学・医療編 著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会 発行所：篠原出版新社 書名：医療情報サブノート（第3版） 著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会 発行所：篠原出版新社</p> |
| <p>関連授業科目</p> |
| <p>医療制度と医療情報システム、食と健康情報</p> |
| <p>その他</p> |
| <p>特になし</p> |
| <p>担当教員の実務経験</p> |
| <p>江別市立病院での医師としての実務経験も盛り込み、医療実践の内容を講義に反映させている。</p> |



担当教員： 西平 順

専 門 内科学、医療情報学、分子医科学
 出身校等 北海道大学 医学部 医学博士（北海道大学）
 現 職 北海道情報大学 非常勤講師

| | |
|----------------------|---|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | インターネットメディア授業内容すべて |
| 試験期間 | シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 |
| 試験範囲 | 授業範囲すべて 【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。 |
| 科目の概要 | 我が国の医療制度は、国民皆保険制度と患者が自由に医療機関を選択できるいわゆる「フリーアクセス」を特徴とした先進的な取り組みとして諸外国から注目されてきた。しかしながら高齢化に伴い多くの課題を抱え、診療体系や地域医療に関連した課題について早急な解決が求められている。 本科目では、既存の医療制度について学ぶと同時に、これらの課題についての解決策についても学ぶ。解決策の一つとして、情報技術を基盤にした医療情報システム（電子カルテ、病院情報システム、遠隔医療など）の導入である。 |
| 科目における学修の到達目標 | 医療と情報を融合した新たな分野について理解を深めることを目標とする。 |
| 講義の方針・計画 | 以下の内容について学ぶ。 第 1 回：医学・医療総論（1） 第 2 回：医学・医療総論（2） 第 3 回：医療制度と社会医学（1） 第 4 回：医療制度と社会医学（2） 第 5 回：医療制度と社会医学（3） 第 6 回：社会保障制度と社会福祉制度 第 7 回：社会福祉と医療・看護 第 8 回：医療管理（1） 第 9 回：医療連携の背景と意義・目的 第 10 回：処置・治療 第 11 回：医療管理（2） 第 12 回：医療情報の特性と個人情報保護 第 13 回：病院情報システムの概要 第 14 回：病院情報システム 第 15 回：地域社会で扱われる情報 |
| 準備学習(予習・復習) | 以下の準備学習を行う。 (予習) インターネットメディア授業の各回のタイトルのから、用語を調べる。 (復習) 授業後に、用語等のポイントについてまとめる。 |

| |
|--|
| 成績評価の方法およびその基準 |
| 次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100% |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 |
| E ラーニングによる授業ですので、繰り返し学習し、知識の定着に努めて下さい IM 授業は、練習問題を解答すると、解答に応じたコメントを画面に表示する。 |
| 教科書 |
| なし |
| 参考書・参考 Web サイト |
| 書名：新版 医療情報 医学・医療編 著者名：日本医療情報学会医療情報技師育成部会 発行所：篠原出版新社 |
| 関連授業科目 |
| 「医学医療」、「食と健康情報」 |
| その他 |
| なし |
| 担当教員の実務経験 |
| 病院での医師としての電子カルテの取り扱いなど、実践的な経験を講義内容に反映させている。 |



担当教員： 西平 順

専 門 内科学、医療情報学、分子医科学
 出身校等 北海道大学 医学部 医学博士（北海道大学）
 現 職 北海道情報大学 非常勤講師

| | |
|--|---------------------------------|
| 授業形態 | 前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業 |
| 授業範囲 | |
| インターネットメディア授業内容すべて | |
| 試験期間 | |
| シラバス検索画面トップページ (https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/) 下部の「2025 学年暦」を参照 | |
| 試験範囲 | |
| 授業内容すべて | |
| <p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> | |
| 科目の概要 | |
| <p>高齢化に伴い、生活習慣、特に食習慣に起因した疾患に関心が高い。糖尿病、肥満、がん、消化器疾患の多くは、その発症に食が関連していることが明らかにされてきた。</p> <p>本科目では、食と病気の関連について理解すると同時に、食材に含まれる機能性成分（抗動脈硬化作用など）について栄養学の観点から学ぶ。さらに、基本的な食品の加工技術についても学ぶ。</p> | |
| 科目における学修の到達目標 | |
| 食と病気の関連について理解することを目標とする。 | |
| 講義の方針・計画 | |
| <p>以下の内容について学ぶ。</p> <p>第 1 回：食事による病気の予防 第 2 回：食欲の制御 第 3 回：食習慣と糖尿病（前編） 第 4 回：食習慣と糖尿病（後編） 第 5 回：食習慣とがん（前編） 第 6 回：食習慣とがん（後編） 第 7 回：食習慣と消化器疾病 第 8 回：食習慣と肝疾患 第 9 回：食習慣と骨粗鬆症 第 10 回：機能性食品の開発（前編） 第 11 回：機能性食品の開発（後編） 第 12 回：食品加工と栄養（前編） 第 13 回：食品加工と栄養（後編） 第 14 回：食品の栄養と機能性 第 15 回：まとめ</p> | |
| 準備学習(予習・復習) | |
| <p>以下の準備学習を行う。</p> <p>（予習）インターネットメディア授業の各回のタイトルから、用語を調べる。 （復習）授業後に、用語等のポイントについてまとめる。</p> | |

| |
|--|
| 成績評価の方法およびその基準 |
| 次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100% |
| 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 |
| E ラーニングによる授業ですので、繰り返し学習し、知識の定着に努めて下さい IM 授業は、練習問題を解答すると、解答に応じたコメントを画面に表示する。 |
| 教科書 |
| なし |
| 参考書・参考 Web サイト |
| 書名：栄養の基本がわかる図解事典 著者名：中村丁次 発行所：成美堂出版 |
| 関連授業科目 |
| 「医学医療」、「医療制度と医療情報システム」 |
| その他 |
| なし |
| 担当教員の実務経験 |
| 食の臨床試験を実践しており、食と健康に関する臨床医学の経験を講義に反映させている。 |